

評価シート集計表

項目		総合評価
生ごみ (3,000トン)		C
委員	評価	評価理由
委員1	B	<ul style="list-style-type: none"> 生ごみ水切りキャンペーン、ごみ袋サイズダウンキャンペーンの参加者が増加し、キャンペーン実施回数も目標を上回った。 家庭用生ごみ処理機、ダンボールコンポストの普及が進んでいる。
委員2	D	引き続き、項番2と3は目標に遠く及ばない結果となっている。目標達成は困難と考えられ、新たな取り組みが求められているのではないかと。
委員3	C	食品ロス削減関連の啓発事業を様々行い、リデュースの取り組みとしての成果が期待できる一方、ダンボールコンポストや大型生ごみ処理機の実績値と目標値との差がますます大きくなってきていることは残念である。
委員4	C	生ごみの減量を推進するためのキャンペーンは積極的に進められているが、コンポストや大型生ごみ処理機の普及拡大に課題が残っている。
委員5	C	生ごみの減量啓発キャンペーンは趣向を凝らした方法で実施され、取組を評価します。生ごみ処理機の普及が量的に少ない。
委員6	C	<ul style="list-style-type: none"> 生ごみに関するキャンペーンの実施が、実際の減量効果に繋がっているとは思えない。 生ごみ処理機、段ボールコンポスト、大型生ごみ処理機の普及が依然として進んでいない。
委員7	C	<ul style="list-style-type: none"> 減量実績の目標比進捗の低さ62.8%自体 目標減量数に対し各取組計画の予測効果と頻度に乖離が甚だしい 堆肥化のメリットを家庭で享受できる世帯は限定的ではないか。
委員8	C	<ul style="list-style-type: none"> 生ごみの減量キャンペーンを子どもセンター、リサイクル推進店で行っているため 生ごみ処理機は普及するのが難しいと思われるため
委員9	C	アクションプランの目標△3000トンに対する達成度は63%で、このままのペースでは、2020年までに目標達成は難しい。
委員10	C	家庭用ごみ処理機の販売は、増加しているようだが、生ごみ処理機による生ごみの処理量が増加しているように見えない。
委員11	C	資料3 -2頁 減量アクションプランの目標までの進捗度について4年目の53.0%はあまりにも低い。ただし、資料3で見ると資源化できる紙類は混入割合の著しい低下もあり分別PRの進捗効果が明らかである。一方、生ごみ量の削減でキャンペーン回数は1つのメルクマール（指標）と思えるが、その削減効果との関係が見えない。
委員12	C	<ul style="list-style-type: none"> 「生ごみ＝燃やせるゴミ」（行政収集のYellowBag）として記す。 厨芥、再生不能紙 ➡評価：A。 食品等の包装材（プラ・ビニール） ➡評価：C～D。 ・家庭用生ごみ処理機、段ボールコンポスト ➡評価：C～D。 ・地域大型生ごみ処理機 ➡評価：D。

評価シート集計表

項目		総合評価
紙類 (2,500トン)		B
委員	評価	評価理由
委員1	B	雑がみとして排出できる紙に啓発文を掲載するという新しい手法を用いて、周知を図った。
委員2	C	項番4は目標値を達成できていない。 ただし、組成調査の結果によれば、紙類の混入率は着実に減少しているため、普及啓発活動が効果を上げ始めている可能性はあるかも知れない。
委員3	B	様々な取組を行い、回収量は増えているが、目標には達していない。
委員4	B	目標値にはまだまだ届かないが、昨年に比べたら改善がみられる部分もある。
委員5	B	大きな紙類の資源化はかなり進んでいると思う。雑がみの仕分けが理解が難しい
委員6	B	紙類については、誰でもわかり易いゴミの種類であり、「雑がみ袋」等の啓蒙により今後の減量の動きが期待できる。
委員7	B	紙の分類は取り組みにくい項目と認識している。周知度を上げることの効果は期待でき、なおかつ減量の進捗も確認でき一定の評価は可能と判断する。資源化することのメリットを含め周知の内容の拡充、ターゲットの拡大を課題に取組を充実させていただきたい。
委員8	B	雑紙回収の実績値が年々上がっている
委員9	C	アクションプランの目標値を達成している。ただし、資源化量は目標値に未達であり、排出量が減少したのか、確証が無い。
委員10	B	実績値は増加しているが、目標値には届いていない。
委員11	B	資料3-4頁にあるとおり、紙類の混入割合が減っており、市民の分別意識や分別情報が普及していることは間違いないと思う。
委員12	A	・新聞紙 ➡評価：A。 ・段ボール ➡評価：A。 ・その他紙類 ➡評価：A。

評価シート集計表

項目		総合評価
事業系ごみ (5,000トン)		B
委員	評価	評価理由
委員1	B	<ul style="list-style-type: none"> ・項番5-a:大規模事業所に対する訪問指導、搬入物検査、 ・項番5-c:ルールブックの改定・配布、 ・項番6：町田商工会議所を含めた事業者組織との連携・啓発活動を実施した。
委員2	B	事業系ごみの排出量は順調に減少している。引き続き削減努力が進められることが期待される。
委員3	B	紙類の回収拠点設置のめどが立たない状況が続いている。
委員4	B	目標を達成できているプランもあるが、目標値が「1」といったものもあり、達成が他の項目と比べて相対的に容易であることに加え、事業者への情報発信や紙類の資源化などの課題が残っている。
委員5	B	2018年度の前年度との比較で4.7%減少したのは評価できる。 情報提供事業者項目で実績と目標数値とかなり離れている。 ルールブックで事業所は不適正物の割合が減少したが44%とまだ多いと思う。
委員6	B	ルールブックは徐々に浸透してきている。
委員7	B	<ul style="list-style-type: none"> ・減量進捗並びに減量実数において一定の結果が見える点を評価する。中小規模事業者への取組み周知について課題を残している。個別への働きかけの困難さに対し商店会、商工会を通じたアプローチを通し、成果が上がるよう取組みを図られたい。
委員8	B	<ul style="list-style-type: none"> ・事業系ごみの排出量は年々下がってきている。 ・町田商工会議所等で食品ロス削減のPR,啓発を行っている。
委員9	A	2020年の目標達成が見えてきている。
委員10	B	実績が上がらないだけと推定するので、このまま活動してください。
委員11	B	項番5-a 大規模事業はかなり減量化と適正処理化が進んでいると思う。しかし、零細事業所についての徹底が必要である。
委員12	B	事業系といっても、産業（工場等）と、業務（オフィスビル、店舗、宿泊所、学校等）のすべてにわたるので、5～7の点検表では評価困難なため、2013年以降の実績推移減少化から、一応B評価とした。

評価シート集計表

項目		総合評価
協働パートナーシップ		B
委員	評価	評価理由
委員1	A	<ul style="list-style-type: none"> ・項番8-a：イベント開催時におけるごみ減量キャンペーンの実施、リデュースを中心とした3R啓発の実施、 ・項番9：分別アプリの配信を相模原市と合同して実施、 ・項番10：出前講座では、対象者からのアンケートや職員の振り返りによって、市民のニーズに合わせた内容で企画・実施することができた。
委員2	B	概ね目標を達成している。不動産業者との連携にも着手でき、一歩前進した。
委員3	A	出前講座、不動産関係者や保健所、スポーツ団体、市民団体など積極的な連携を行い、ともに活動したことは評価できる。
委員4	A	種々な活動に積極的に取り組んでいる。
委員5	B	多方面に働きかけ活動している。リサイクル広場は各地域で定期的で開催され、ごみ減量の必要性を身近に感じてもらえる良い機会だと思う。
委員6	B	・市内の各種イベントでのPRIはよくできている。
委員7	C	効果測定されるものがなく評価が困難
委員8	A	地元のスポーツチームや大会でのマイボトル啓発キャンペーンで実績値が目標値を上回っている。
委員9	A	各種キャンペーンなど目標回数など達成している。
委員10	B	台風等による未実施のイベントがあった為。
委員11	B	項目8-a リサイクル広場や啓発イベントの回数、来場者数は目標に近づいている。
委員12	A	・報告書だけでなく、町内会活動を通して、3R推進課の各種活動・努力がうかがわれる。